

鳥居の石ころ落とし

どの町筋も観光客とその車で交通停滞を起すほどのにぎわいなのに、夏休みにはいれば、さしつめ早朝六時までの間は、この古い城下町の盆地の朝靄を、ホトトギスが鳴いて渡る静けさです。

そのなかをお年寄りが、早朝散歩をなさいます。

「としがよらんとこんな気持ちの良さは味わえまへんなー。この自然の中に今いきてるんやどしみじみ有り難う感じますんや」

八十三歳になるご老人がおっしゃいます。

そのご老人の今朝の話し。

城跡の山の中腹のお稲荷さんまで、五・六十段の石段があつて、そこにまた何十もの赤い鳥居が立ち並んでいます。この石段の道は、ことに夏ともなれば若者中年のデートコース。ところが、このたくさんある鳥居の上に大小の石ころが置かれているのだそうです。

誰が、何のためにこんな石を置くのか。きたならしいし第一下を通る者には危険です。

それでその老人、何日か掛かって、竿で石を奇麗にたたき落としたのだそうです。が二ヶ月すると元の木阿弥、また鳥居の上に石が並んでいるというのです。

「だれがなんでこんなことをするのでしょうかー」と、行きすりのご婦人に聞いて見ました。

「これやると願い事がかなうんですって。高校生が定期考査時期になるとよくやっていますよ。大人の人たちも真剣に何か祈願しながらやってるのをよく見かけます」

何かを求める人が多いですが、かなえられない人生を生きて来たお互いは、かなわぬことと知りながら、愚かな事とはし

りながら、神に仏に願い事をかけてそのイラを切り抜けてきた。
合格祈願、家内安全祈願、交通安全祈願、病気平癒祈願などなど。
笑いきれない、そのやるせない人生の苦悩はいたいほど分かるけれども、わしは、やっぱ落としに行こうと思っている。

その人達にお説教するつもりなんか毛頭ないが、年寄ったわたしは

「しあわせと言うものは、求めて、願つて、祈つてつかめるのではない。イライラが募るばかりや。年がよらんとわかるかもしけんだけありがたい幸せかが、年よつて見えて来たこのことを若い者にも知つてほしいと思って、石ころ落としをはげみますのや」、

聴聞を重ね重ねて

喜びを

加古川組 吉田美智子

兵庫教正門徒推進員連絡協議会

八月十九日(月)

九時半 受付 17時 解散

「によらいさま」のおはなし

らいはいの作法
おみのりのうた

たのしいビデオ
おつとめれんしゅう

こうさく・しゅげい

など

◎仏婦評議員様を通して十五日までに申し込み
参加費 一人 500円
☆おかあさんも仏婦会員も、いつ
よに参加して共に学びましょう。

研修会も婦

手を合わせ
孫の姿に
お念佛

神戸湊組 尾崎博夫

兵庫教正門徒推進員連絡協議会